

第7回仏生寺カローリング大会を開催

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大のため、前年度は中止、今年も延期しておりましたが、感染者が激減したことから、11月14日（日）に2年半ぶりに「第7回カローリング大会」を開催しました。29チーム、約100名の参加者があり、入場時の検温、マスク着用を徹底しました。また、1試合終了毎にジェットローラハンドルの消毒を行いながら、久しぶりのカローリングを楽しみました。例年、この大会の昼食に炊き出し（防災訓練を兼ねて）を行っていましたが、コロナ禍中止にしました。成績は次のとおりです。

優勝…鞍骨Cチーム、準優勝…大窪Cチーム、三位…鉾根Aチーム



カローリング大会の様子

第11回夜間ペタンク大会

令和3年8月3日・5日・7日の夜間に、自治振興委員会主催の第11回夜間ペタンク大会を開催しました。コロナ禍、24チームの参加があり、全員マスク着用し、ペタンク玉の消毒を行いながら試合を行いました。

成績 優勝……脇之谷内D
準優勝…寺中D
三位……脇之谷内C

斎藤弥九郎を学ぶバスツアーを2回開催

令和3年7月7日に斎藤弥九郎を学ぶバスツアー第1回目を開催しました。参加者26名が大型バスで、弥九郎先生の銅像が建立されている、脇之谷内集落総合センター、十三中学校、朝日山公園の3カ所の銅像を見て回りました。その後、仏生寺公民館で氷見市教育委員会の小谷課長補佐から、弥九郎の生涯、功績等について解説を聞きました。



令和3年10月24日が弥九郎先生没後150年の命日にあたることから、第2回目のバスツアーを開催しました。参加者28名が大型バスで、3カ所の銅像を見学した後、氷見市立博物館で「斎藤弥九郎が駆け抜けた時代」特別展を小谷課長補佐の案内で見学しました。このツアーに、弥九郎先生の娘の玄孫にあたる菅野嘉久・直子さんご夫妻（東京都品川区）が、仏生寺地域づくり協議会ホームページを見て参加されました。



▲菅野さんご夫妻

地区防災計画の見直し・いのちのバトン・避難支援シートを更新

○地区防災計画の見直しと、いのちのバトン・避難支援シートを更新作業を円滑に実施するため、7月に実行委員会を立ち上げました。11月までに4回の委員会を開催し、見直し内容や作業手順等について協議を行いながら事業を実施しました。

○本年5月の法律改正により、土砂災害・洪水等の災害が発生する恐れがあるとき、氷見市から発令される避難情報（避難勧告が廃止、避難指示に一本化）が変更されました。また、避難所の新型コロナウイルス等の感染症対策も必要になったことから、地区防災計画の見直しを行いました。新しい地区防災計画を1月に発行し、自治振興委員（自主防災会役員）、民生委員、防災士等が保管し、万が一の災害に備えます。

○地区防災計画の見直しに伴い、仏生寺地区防災・生活便利帳の見直しも行いました。新しい仏生寺地区防災・生活便利帳は1月に発行し、全戸配布します。

○いのちのバトン・避難支援シートを平成26年に登録・作成しました。6年が経ち、登録内容の変更も多くなったことから、自治振興委員、民生委員、福祉サポーター、各集落の役員のみなさんにご協力をいただき、9月に仏生寺地区全世帯を対象に更新作業を実施しました。

新しい「いのちのバトン・避難支援シート台帳」は、自治振興委員、民生委員が保管し、災害時や緊急搬送時等に役立ってます。

○実行委員会委員名簿

団体名等	氏名	役職
氷見市地域防災課課長	中川 道郎	委員
氷見市社会福祉協議会	千財 歩美	委員
仏生寺地域づくり協議会会長	屋敷 宗一	委員長
〃 副会長	松下 正市	委員
〃 福祉健康部会長	堂下 秀行	委員
〃 事務局長	西尾 忠雄	委員
仏生寺地区自主防災会会長	片田 義治	副委員長
〃 副会長	田中 稔	委員
〃 監事	山野 敏也	委員
〃 監事	荒井 市郎	委員

実行委員会事務局 高木恵恵子

仏生寺地区防災計画

防災

1 避難所及び緊急避難場所	P 1
2 避難場所の選択	P 2
3 氷見市から避難を促す情報	P 3
4 仏生寺地区自主防災会役員の役割	P 4
5 避難所運営マニュアル	P 5
6 防災訓練の実施計画	P 6
7 防災備品の管理、点検及び整備	P 9
8 いのちのバトン・避難支援シートの活用	P 9
9 その他（防災関係資料）	P 10

令和4年1月
仏生寺地域づくり協議会



仏生寺地区 防災・生活便利帳



仏生寺地域づくり協議会 令和4年1月発行

令和3年度仏生寺地区防災訓練を実施

10月17日（日）仏生寺地区の防災訓練を行いました。富山气象台から仏生寺地区に大雨警報及び土砂災害警戒情報が発表され、氷見市から河川氾濫や土砂災害の発生する可能性が高まったことから、避難指示が発令されたことを想定した訓練を実施しました。



▲開始式の様子

避難所に到着後、全員が検温、手の消毒をしてから入場しました。災害情報を掲示板に貼り出し、避難者名簿を本部に報告しました。その後、開始式に移り、片田自主防災会長、氷見市地域防災課長の挨拶があり、屋敷防災士の防災講演会（地区防災計画の見直しの概要）がありました。



▲個室テント設営



▲検温・消毒



▲簡易トイレ



▲災害情報
掲示板

氷見市から仏生寺地区自主防災会長（自治振興委員長）の携帯電話に避難指示の連絡があり、会長は直ちに各集落の区長に避難指示を伝達し、連絡を受けた区長は、情報伝達班長、避難支援班長に近隣住民を十三中学校に避難するように伝達する情報伝達訓練を行いました。



▲更衣室・救護室テント

避難所設営訓練では、体育館横に新設した防災倉庫に保管してある機材を使う訓練をしました。①非常用発電機で発電し、LED投光器で照明②個室テント（天井なし）を設営し居住スペースの間仕切り③個室テント（天井あり）を設営し更衣室・救護室等を設置④ワンタッチテント及びワンタッチトイレで簡易トイレを設置⑤アルファ米の炊き出し



▲炊き出しの様子

宝くじ・おらっチャ創生等助成金で防災備品等の整備

仏生寺地区は、居住区域のほぼ全域が土砂災害警戒区域、又は土砂災害特別警戒区域に指定されていることから、地域づくりの基本目標に「安心して暮らせる地域づくり」を掲げ、防災・減災活動の充実を最優先課題として、毎年防災訓練や防災備品等の整備を実施しています。

◇本年度は、市コミュニティ助成事業（宝くじ助成）で、200万円の助成を受けて、次の防災備品等を整備しました。

- ① 防災備品保管庫…市指定の避難所である十三中学校体育館横に、防災備品保管倉庫（床面積9.24平方メートル）を設置
- ② ワンタッチテント及びワンタッチトイレ各10個…災害時の簡易トイレ10セット
- ③ キャンピングマット140枚…避難所の敷布団代用品
- ④ 車イス3台…障害者、高齢者等の移動用具
- ⑤ 室内テント20個…避難所の居住スペース間仕切り



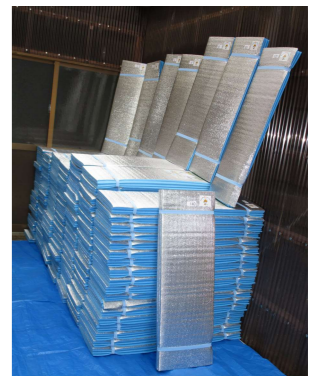
▲防災備品保管庫（十三中学校体育館横）



▲ワンタッチトイレ



▲ワンタッチテント



▲キャンピングマット



▲室内テント（天井なし）



◇おらっチャ創生支援事業で、100万円の助成を受けて次の防災備品等を整備しました。

- ① 1ページ掲載の「仏生寺地区防災計画」の冊子200部を作成
- ② 室内テント30個…避難所の居住スペースの間仕切り
- ③ キャンピングマット30枚…避難所の敷布団代用品



◀ テント内キャンピングマット